Japan Bowling Congress

JBCnews

since1970

【毎月１回１日発行・１部20円】

JBCニュース
第565号 平成３１年１月１日
昭和50年５月19日第三種郵便物認可

発行所
公益財団法人 全日本ボウリング協会
東京都港区芝４－４－10
サンライズ長井ビル8F 03(3452)4501
http://www.jbc-bowling.or.jp/

殻を破り 次への飛躍を

公益財団法人 全日本ボウリング協会
会長 北川 薫

あけましておめでとうございます。

皆様方には、ご健勝にて新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

JBCにとって昨年は、大きな節目の年でありました。その一つは、第18回アジア競技大会（2018／ジャカルタ・パレンバン）です。日本代表は男子トリオ戦で連覇を、女子マスターズ戦で初優勝を果たしました。4年をかけて鍛えた成果を、目標に据えた舞台で達成できたことが強化成功の証しであったと考えております。選手たちはもちろん監督やサポートスタッフを称えるとともに、日頃からご声援を送り続けてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

より若い世代は世界ユース選手権大会やアジアスクール選手権大会で表彰台に上り、自信を高めました。しかし、若い世代にとって第18回アジア競技大会の成績は乗り越えるべき目標にすぎません。頑張ってください。シニア世代も、ラウンドワン・グランドチャンピオンシップボウリング2018でプロを破り優勝するという快挙を成し遂げました。また、昨年12月には、JBCが主管する沖縄でのアジアシニア選手権大会で、競い合うこと、交流することの楽しさを確認しました。このように、幅広い世代で「スポーツボウリング」の成果を感じた一年でもありました。

この数年で「日本から世界へ」の夢が幾度となく叶えられましたが、これが幸運に恵まれたのではなく、努力による必然的な結果であると伝えていくことは我が国のボウリング界の遺産として大切です。それは次なる成功への種まきです。ありがたいことにボウリングは「自分にも、今からでもできるかも」という希望を持ちやすいスポーツです。入口の気軽さとアスリートとしての名誉を両立させて人々を惹き込み「№1国民スポーツ⇒ボウリング」を実現させること、この考えは日本のボウリング団体が一致結集した日本ボウリング機構（Japan Bowling Organization; JBO）のビジョンでもあります。このJBOの設立を通じて、国内ボウリングの多様性を改めて知るとともに、ボウラーや各種団体が抱える課題と解決の道筋も見えてきました。JBCの殻を破り国内ボウリングの魅力向上により一層注力する所存です。

2019年は節目のあとの再始動の年です。JBCは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の先を見据えています。これまで強調してきた「スポーツボウリング」の方針に立脚し、新たな目標と課題に向かって邁進します。最後となりますが、ボウラーの皆様、ボウリングファンの皆様には、JBCに対する倍旧のご協力のほど、よろしくお願い申し上げ、皆様のご多幸を祈念いたしております。

本年もよろしくお願い申し上げます

公益財団法人
全日本ボウリング協会

会長 北川 薫
副会長 吉岡 英隆
〃 山本 英弘
〃 丹羽 秀樹
顧問 臼井 日出男
専務理事 事務局長 齋藤 良太郎
常務理事 佐藤 直亮
理事 森岡 京子
〃 金安 利和
〃 不破 伸二
〃 荻野 和男
〃 四宮 和裕
〃 塚田 芳久
〃 伊藤 寛
〃 川井 敏孝
〃 西林 康憲
〃 米澤 満
〃 高橋 尚代
〃 松下 秀雄
〃 金谷 志信
〃 犬島 宗男
〃 近藤 浩一
〃 田坂 幾太
〃 平野 裕一
〃 川崎 治夫
監事 張ヶ谷 和年
〃 岸邊 輝彌

二〇一九年 元旦

ＪＢＣニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています スポーツくじ toto BIG

Season's greetings and best wishes for the New Year.

スポーツ庁 長官 鈴木 大地

平成31年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

スポーツは世界共通の人類の文化であり、全ての人が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創ることができます。

ボウリング競技は、幅広い年齢層の人々から親しまれ、生涯スポーツとして愛好されるとともに、高い技術を必要とする競技スポーツとしても発展しております。

昨年7月にアメリカ・ミシガンで開催された第15回世界ユースボウリング選手権大会においては、金メダル1つ、銅メダル2つを獲得するとともに、8月にインドネシア・パレンバンで開催された第18回アジア競技大会においては、金メダル2つを獲得するなど、好成績を収められました。これもひとえに選手の皆様の日々のたゆまぬ努力と貴協会の御尽力の賜物と深く敬意を表する次第です。

これまでスポーツ庁は、国際競技力の向上をはじめとして、スポーツを通じた健康増進や地域・経済の活性化、国際交流・協力、さらに障害者スポーツの振興など、スポーツ行政を総合的・一体的に推進してまいりました。また、スポーツ活動が公正かつ適切に実施されるよう、関係団体と連携しながらスポーツ・インテグリティの確保に努めているところです。

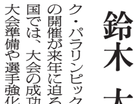
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、我が国では、大会の成功に向け、大会準備や選手強化等にオールジャパン体制で取り組んでおります。この2020年を契機に、国民のスポーツに対する関心がこれまでにないほど高まり、スポーツの力が最大限発揮されることと思います。

スポーツ庁としましては、この気運の高まりを一過性のものとすることなく、2020年以降もオリンピック・パラリンピック開催のレガシーとして、全ての人がスポーツに親しめる「一億総スポーツ社会」の実現を目指してまいりたいと考えております。引き続き、皆様からの御支援・御協力をお願い申し上げます。

貴協会におかれましては、今後もボウリング競技の競技力向上と普及・発展に努めていただくとともに、国内・国際競技大会等でますます御活躍されることを期待いたします。

結びに、公益財団法人全日本ボウリング協会のさらなる御発展と、関係者のますますの御活躍を祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

公益財団法人 日本オリンピック委員会 会長 竹田 恆和



2019年の新年を迎え、全国のボウリング愛好者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年のボウリング界を振り返りますと、第18回アジア競技大会では、女子スタースポーツ選手権大会では女子シングルスでの金メダル獲得、男子チーム戦での3大会連続影台など、世界を相手に各世代にわたって輝かしい活躍を重ねられました。

このほか、昨年の第73回国民体育大会最終日翌日に行われた福井おおいあいボウリング場で、地域住民が地元選手やナショナルチームと一緒に競技と交流を楽しめたことは、多様なスポーツ享受の機会を提供し、ボウリング文化が一層の定着を深めるためにも大変意義深いものと考えております。

これらの成果・取組は関係者の皆様の御尽力の賜物であり、心より敬意を表する次第です。

一方、日本スポーツマスターズ2018札幌大会は平成30年北海道胆振東部地震により残念ながら中止といたしました。改めて被害に遭われた方々にお見舞い申し上げますとともに、参加者・関係の皆様のご理解ご協力に深く感謝申し上げます。今年は岐阜県で開催いたしますので、ぜひ多くの方々がご参加されることをお待ち申し上げます。

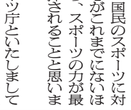
さて、日本のスポーツ界は、今年9月のラグビーワールドカップ開催を皮切りに、2020年にオリンピック・パラリンピック競技大会、2021年にワールドマスターズゲームスといった国際的ビッグイベントを控え、スポーツへの国民の関心が益々高まっています。

このような中、昨年は誠に残念ながら多くの不祥事が発生し、スポーツのインテグリティを脅かす事態となりました。本会としましては、スポーツ界一丸となりインテグリティ・高潔性を向上させ、安心安全にスポーツに親しめる環境を整えることが必須であると考えております。

今後、公益財団法人全日本ボウリング協会をはじめとする関係の皆様の連携をより一層強固に取り組んでまいりますので、引き続きお力添えいただきますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、貴協会の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

公益財団法人 日本スポーツ協会 会長 伊藤 雅俊



輝ける二〇一九年の新春を心からお慶び申し上げます。

皆様には御健やかにお新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

JBC会員の皆様方には、日頃から私共日本スポーツ協会のインターネットをご愛顧賜り誠に有難うございます。

本紙上をお借りして厚くお礼を申し上げます。

近年増えている自然災害による被害が、昨年も多く発生しました。

台風や、それに匹敵する豪雨・暴風、また九月には、北海道胆振地方中東部を震源とした震度七の地震が発生するなど、私たちの仲間でボウリング場も大きな被害を受けました。

その爪痕を深く、現在も支援を求める人々がいるのです。

一日も早く復旧をお祈りいたします。

さて、ご存じのとおり昨年八月、ボウリング業界におけるすべての団体が結集し、新団体「日本ボウリング機構」（略称：JBO）を設立いたしました。

厳しい業界の中、現在のボウリング場を支えてくださっているボウラーの皆様が、これから先も真剣にボウリングと向き合い、そして長期に亘り安心してボウリングを楽しんでいただけるよう、業界一丸となって取り組んでいく所存です。

ここで一つ、ボウラーの皆様にお願いがあります。

ボウリングの素晴らしさを誰よりもご存じの皆様には、ボウリングをまだよく知らない日本中の人々に、その素晴らしさを伝えるお手伝いをしていただきたいのです。

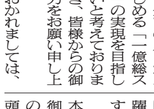
永年に亘り幅広い層の方々に支持されているこの素晴らしいスポーツ「ボウリング」を、是非私達と一緒に次の世代に伝えていきましょう。

JBOが、重要なプランのひとつに挙げている「オリンピック・パラリンピックの種目化」についても、一昨年の「世界ボウリング選手権大会」及び、昨年八月の「第一八回アジア競技大会」における日本選手団の活躍のその先には、必ず明るい未来が開けているのだと信じています。

弊協会も、ボウリング業界のより一層の発展のために努力してまいりますので、北川会長はじめ、JBC会員皆様方の引き続いてのご支援ご尽力を、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、貴協会のますますのご発展と、今年一年のJBC会員皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

公益財団法人 日本ボウリング場協会 会長 中里 則彦



ウリング場を支えてくださっているボウラーの皆様が、これから先も真剣にボウリングと向き合い、そして長期に亘り安心してボウリングを楽しんでいただけるよう、業界一丸となって取り組んでいく所存です。

ここで一つ、ボウラーの皆様にお願いがあります。

ボウリングの素晴らしさを誰よりもご存じの皆様には、ボウリングをまだよく知らない日本中の人々に、その素晴らしさを伝えるお手伝いをしていただきたいのです。

永年に亘り幅広い層の方々に支持されているこの素晴らしいスポーツ「ボウリング」を、是非私達と一緒に次の世代に伝えていきましょう。

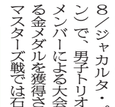
JBOが、重要なプランのひとつに挙げている「オリンピック・パラリンピックの種目化」についても、一昨年の「世界ボウリング選手権大会」及び、昨年八月の「第一八回アジア競技大会」における日本選手団の活躍のその先には、必ず明るい未来が開けているのだと信じています。

弊協会も、ボウリング業界のより一層の発展のために努力してまいりますので、北川会長はじめ、JBC会員皆様方の引き続いてのご支援ご尽力を、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、貴協会のますますのご発展と、今年一年のJBC会員皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

INFORMATION 大会・イベント情報

公益社団法人 日本プロボウリング協会 会長 谷口 健



2019年年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

（公財）全日本ボウリング協会北川会長をはじめ、JBC会員の皆様におかれましては、お健やかに良き新年をお迎えのことと思います。

昨年度の国内・国際主要大会において、貴協会選手が第18回アジア競技大会（2018／ジャカルタ・パレンバン）で、男子トリオ戦では同メンバーによる大会連覇となる金メダルを獲得され、女子マスターズ戦では石本美来選手が2つの種目日本勢初の金メダリストとなり、男女共大活躍のアジア大会でした。

また、第19回アジアスクール選手権大会においても素晴らしい成績を残されましたことに祝福申し上げ競技選手育成ならびに次世代を担うジュニアボウラー育成の活動などの取り組みに対して、心からの敬意を表します。

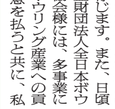
昨年、公益三団体を中心に日本ボウリング機構（JBO）が発足しましたが、機構発足にあたりご賛同いただきました、一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会、日本ボウラーズ連盟、全国実業団ボウリング連盟、ジャパンレディースボウリングクラブ、日本ボウリング商工会を含め全国体で、我が国のボウリング発展を期すため活動を行って参ります。

弊協会は本年も公益法人として、国民の相互理解と親睦および心身の健康維持に寄与し、生涯スポーツとして地域社会に貢献することを目的に継続活動を行います。

特に、全国のボウリング場で開催されている「健康ボウリング教室」および「全国ジュニアボウリング教室」を継続事業として地域のプロボウラー等引き続きサポートするとともに、プロボウラーはトーナメントにおいて夢と感動を与えるプレーでファン獲得に繋がるよう努めてまいります。

最後になりますが、（公財）全日本ボウリング協会北川会長をはじめ、貴協会ご発展会員皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。

日本ボウリング商工会 理事長 高橋 節雄



2019年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

JBC会員の皆様及び全国ボウリング愛好者の皆様に、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また、日頃よりJBC公益財団法人全日本ボウリング協会様には、多事業にわたるボウリング産業への貢献に敬意を払うと共に、私共、日本ボウリング商工会（BICA）会員各社におきまして、旧年中に賜りました厚情に深く感謝申し上げます。

現況、耐震補強や建物・設備の老朽化によりボウリング場の減少のペースが、2020東京オリンピック・パラリンピック大会を米に控え、スポーツムーブメントの風潮にあり、爆発的なシニア層の増加と共に、レジャーの進展に努力、猪突猛進のごとく邁進してゆく所存です。

すとともに、弊協会を引き続きご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

昨年、8団体集結のもと発足しました日本ボウリング機構（JBO）の一員として日本ボウリング商工会は、No.1国民スポーツ・ボウリングを合言葉に協力し、貴協会と共にその土台となれるよう微力ではございますが取り組んで参ったと思います。またROUND1グランドチャンピオンシップやKUWATA CUPなどの団体の垣根を超えた活躍性のある大会が増えております。No.1国民スポーツにするためにも、ボウリング界だけの話でなく、夢のある国民スポーツと認識を持って皆様と共にこのボウリングの素晴らしさを是非とも広めてゆきましょう。

続けてこの一年が、貴協会の益々のご発展と関係各位様のご活躍を祈念申し上げ、年頭のご挨拶にかえさせていただきます。

2018年度 強化コーチ研修会

2月に大阪&東京で開催

2018年度全日本強化コーチ研修会を、東京・大阪の2会場で開催します。実技実習を交えた「選手に合わせた指導方法」の講習と、「ボールの特性とコンディションにあわせた選択」を主とした1日の研修です。各都道府県で選手発掘・育成・強化に携われている指導者の方や、JSPO（日・日体協）公認コーチ・指導員資格をお持ちの方はぜひご参加ください。

【研修会概要】

▽期日・会場

●大阪会場 2月23日(土)・神崎川ダイドーボウル（大阪府豊中市）

●東京会場 2月24日(日)・シチズンボウル（東京都新宿区）

※研修内容は同一です。都合の良い会場を選択してください。

▽参加費 無料

▽申込方法 所定の申込用紙に記入の上、各都道府県連盟を通じてお申込みください。

▽申込締切 2月1日(金)（先着50名に締め切ります）

JBC公認ドリラー有資格者研修会 申込受付中

▽義務研修会・東京会場 2月8日(金) 東京ポートボウル（東京都港区）

申込締切 2月1日(金)

▽義務研修会・大阪会場 3月7日(木) 神崎川ダイドーボウル（大阪府豊中市）

申込締切 2月27日(水)

▽義務研修会・福岡会場 3月8日(金) 博多スターレーン（福岡県福岡市）

申込締切 2月27日(水)

参加費は3,000円（全会場共通）です。2018年度から、3年に1回義務研修を受けた方のみ登録更新が可能となります。公認ドリラー有資格者の方はお近くの会場で受講されますようお願いいたします。

イベントカレンダー 1月&2月&3月

▽1月18日(金)～20日(日) 第47回全日本学生選手権大会 京都・しょうざんボウル

▽1月21日(月)～22日(火) JBC公認ドリラー有資格者研修会・シルバーコース 神奈川・スポルト八景ボウル

▽1月26日(土) ボウリング教室（キャラバン隊） 三重・津グランドボウル

▽1月27日(日) ボウリング教室（キャラバン隊） 岐阜・多治見パークレーンズ

▽2月1日(金)～3日(日) 第36回全日本実業団都市対抗選手権大会 東京・東大和グランドボウル

▽2月8日(金) JBC公認ドリラー有資格者研修会・義務研修会 東京・東京ポートボウル

▽2月9日(土)～11日(月・祝) JBC会長杯第34回全日本年齢別選手権大会 神奈川・川崎グランドボウル

▽2月14日(木)～16日(土) 第50回全日本大学個人選手権大会 京都・キョーイチボウル宇治

▽2月23日(土) 全日本強化コーチ研修会（西地区） 大阪・神崎川ダイドーボウル

▽2月24日(日) 全日本強化コーチ研修会（東地区） 東京・シチズンボウル

▽3月7日(木) JBC公認ドリラー有資格者研修会・義務研修会 大阪・神崎川ダイドーボウル

▽3月8日(金) JBC公認ドリラー有資格者研修会・義務研修会 福岡・博多スターレーン

▽3月21日(木・祝)～24日(日) 文部科学大臣杯第57回全日本選手権大会 愛知・稲沢グランドボウル

▽3月21日(木・祝) 平成30年度第4回理事会 愛知・稲沢グランドボウル

2018年度 各連盟公認競技会・リーグ登録数

2018年12月26日 現在

地区名	連盟	競技会 公認件数	競技会 開催実数	リーグ 公認件数
北海道地区	北海道	31	72	4
東北地区	青森	30	70	
	岩手	21	84	
	宮城	30	92	
	秋田	16	57	
	山形	21	60	2
	福島	19	15	
関東地区	茨城	18		
	栃木	11	30	
	群馬	17	62	8
	埼玉	38	88	
	千葉	23	52	11
	東京	25	84	28
	神奈川	30	45	33
	山梨	27	33	
北信越地区	新潟	14		
	長野	21	54	2
	富山	23	80	1
	石川	22	41	20
	福井	9		
東海地区	静岡	43	106	16
	愛知	60	179	3
	三重	33	67	
	岐阜	33	58	
関西地区	滋賀	32	96	
	京都	59	47	11
	大阪	38	41	8
	兵庫	23	59	22
	奈良	15	12	
	和歌山	16	24	
中国地区	鳥取	12	10	
	島根	8	19	2
	岡山	51	112	1
	広島	14	16	6
	山口	13	24	19
四国地区	香川	19	33	1
	徳島	12	29	1
	愛媛	16	19	4
	高知	2	8	
九州・沖縄地区	福岡	52	110	79
	佐賀	9	6	11
	長崎	27	47	41
	熊本	23	40	65
	大分	14		4
	宮崎	27	87	14
	鹿児島	24	74	
	沖縄	23	51	22
全日本学生連合		14		4
総計		1,150	2,393	443

広島県ボウリング場協会
会長 中村和敏
〒731-5124 広島市佐伯区皆賀4丁目19-6 ミススガーデン浜内
☎ 082-922-5161
FAX 082-922-5132
http://www.bpah.or.jp/

株式会社 アイワ徽章
代表取締役 村松寛治
〒105-0004 東京都港区新橋1-18-12
☎ 03-3503-0031
FAX 03-3503-0034
http://www.aiwakisho.co.jp/

KICコンサルティング株式会社
代表取締役 鷲見隆史
〒107-0062 東京都港区南青山6-7-5 ドミール南青山310
☎ 03-6805-1064
FAX 03-6805-1069
http://www.kic-consul.jp

ミィーフコーポレーション
寺村眞代
〒533-0023 大阪市東淀川区東淡路2丁目3-28
☎ 06-6325-1171
FAX 06-6325-1170
✉ teramura@iris.ocn.ne.jp

株式会社 アサヒボウリングサービス
代表取締役 福森建司
〒350-0027 埼玉県川越市南田島843-1
☎ 049-226-4050
FAX 049-226-4061

株式会社 星ケ丘ボウル
代表取締役社長 水野茂生
〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町16-45
☎ 052-781-5656
FAX 052-781-5663
http://www.hoshigaoka.co.jp/

株式会社 マルヰ 山形ファミリーボウル
代表取締役 井上智之
〒990-0821 山形市北町2-2-45
☎ 023-684-1601
FAX 023-684-5055
http://www.maruwi.co.jp/YFB/

株式会社イースタンスポーツ
代表取締役社長 中野明
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-11-15 新宿東京海上日動ビル9F
☎ 03-3379-7333代
FAX 03-3320-4126
https://www.starlanes.co.jp/

株式会社グランドボウル
代表取締役社長 原澤謙司
〒459-8001 愛知県名古屋市緑区大高町忠治山12-1 名古屋グランドボウル3F
☎ 052-623-7535
FAX 052-623-2548
http://www.grandbowl.jp/

福岡県公認ボウリング場協会
会長 秀嶋康成
〒811-2413 福岡県糟屋郡篠栗町尾仲1187-1
☎ 092-410-6911
FAX 092-410-6912

㈱ベースボール・マガジン社 ボウリング・マガジン
代表取締役社長 池田哲雄
〒103-8482 東京都中央区日本橋浜町2-61-9 TIE浜町ビル
☎ 03-5643-3893
FAX 03-5643-3894
http://www.bbm-japan.com/

ボウリングジャーナル社
代表 津田浩
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-19-23 ステュディオ新御堂702
☎ 06-6393-0255
FAX 06-6393-0257

エースランド株式会社 宮崎エースレーン
代表取締役社長 藤元良一
〒880-0812 宮崎市高千穂通1-3-22 エースランド内
☎ 0985-25-6262
FAX 0985-25-5305
http://www.aceland.jp/

森興産株式会社 スエヒロボウル
代表取締役社長 森博史
〒770-0865 徳島市南末広町4-95
☎ 088-625-2256
FAX 088-652-3052
http://www.suehiro-bowl.co.jp/

株式会社しょうざん しょうざんボウル
代表取締役社長 松山靖史
〒603-8451 京都市北区衣笠鏡石町47
☎ 075-491-5101
FAX 075-495-2089
http://www.shozan.co.jp/

株式会社 イマジンクリエイション
代表取締役 柴山均
〒140-0011 東京都品川区東大井2-25-1
☎ 03-6436-8910
FAX 03-6436-8912

東洋ネーム工業
社長 島隆三
〒615-0812 京都市右京区西京極大門町12
☎ 075-313-0115
FAX 075-311-6271
http://www.toyoname.jp/

株式会社サンシステムサービス
代表取締役 石川年子
〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央4-11-11 鶴見グリーンハイツ303号
☎ 045-521-8156
FAX 045-506-4200
✉ sun.s.s@nifty.com

あけましておめでとうございます

2019年 元旦

株式会社エナジックボウル
代表取締役 下地賀寿守
〒904-0115 沖縄県中頭郡北谷町美浜9-8 シーサイドスクエア2F
☎ 098-926-3939
FAX 098-926-3800
http://www.enagicbowl.com/

オーディン協議会
会長 熊和敏
〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船1245-1
☎ 0869-26-8870
FAX 0869-26-8871

日本ボウリング商工会
理事長 高橋節雄
〒182-0012 東京都調布市深大寺東町8-2-9 レジェンドスター浜内
☎ 03-3371-2735
FAX 03-3371-2735

公益社団法人 日本プロボウリング協会
会長 谷口健
〒105-0023 東京都港区芝浦1-13-10 第三東運ビル2F
☎ 03-6436-0310
FAX 03-3454-6140
http://www.jpba.or.jp/

公益社団法人 日本ボウリング場協会
会長 中里則彦
〒140-0004 東京都品川区南品川2-2-10 南品川Nビル3F
☎ 03-6433-0450
FAX 03-6433-0451
http://www.bowling.or.jp/

ダイドードリンコ株式会社
代表取締役社長 高松富也
〒530-0005 大阪市北区中之島2丁目2番7号 中之島セントラルタワー18F
☎ 06-6222-2611
https://www.dydo.co.jp/

京王観光株式会社
代表取締役社長 越水陽太郎
〒151-0061 東京都渋谷区初台1-54-2
☎ 03-5351-7141
FAX 03-3373-1615
www.keio-kanko.co.jp

株式会社ウェルズホーム
代表取締役 菊地祐司
〒963-8047 福島県郡山市富田東一丁目310番地
☎ 024-936-0660
FAX 024-936-0661
https://www.wells-home-web.com/

ファイテン株式会社
代表取締役 平田好宏
〒604-8152 京都市中京区手洗水町678
☎ 075-229-7575
FAX 075-229-7509
http://www.phiten.com/

東海東京証券株式会社
代表取締役会長 最高経営責任者(CEO) 石田建昭
〒450-6212 愛知県名古屋市中村区名駅4-7-1
☎ 052-527-1111
http://www.tokaitokyo.co.jp/

日本ユボナイト株式会社
代表取締役社長 加藤章
〒144-0056 東京都大田区西六郷4-36-5
☎ 03-3731-2271
FAX 03-3731-2274
http://www.nichi-ebo.co.jp/

レジェンドスター株式会社
代表取締役 高橋節雄
〒182-0012 東京都調布市深大寺東町8-2-9
☎ 042-480-2341
FAX 042-480-2344

株式会社ハイ・スポーツ社
代表取締役社長 川島幸一郎
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1259
☎ 045-471-9445
FAX 045-471-9447
http://www.hi-sp.co.jp/

サンブリッジグループ 株式会社サンブリッジ 株式会社サンリッチインターナショナル
代表取締役 橋本政明
〒654-0161 神戸市須磨区弥栄台1丁目10-3
☎ 078-797-6230
FAX 078-797-6231
http://www.sunbridge-group.com/

株式会社 アメリカンボウリングサービス
代表取締役会長 渡邉保
代表取締役社長 伊東正美
〒143-0021 東京都大田区北馬込1-1-1
☎ 03-5718-7111
FAX 03-5718-7112
http://www.absbowling.co.jp/

第51回 全日本実業団選手権大会

安定感の本命が逃げ切り

トヨタ自動車（愛知）

第51回全日本実業団選手権大会が11月23日（金・祝）から25日(日)にかけて、愛媛・キスケボウル（公競No.138-032）で開催された。各社総力戦の5人チーム戦で競う実業団の最高峰。過去5年連続で3位以内をキープしてきたトヨタ自動車（愛知）が予選から一度も首位を譲らず、2年ぶり7度目の優勝を果たした。

開会式

大会初日の11月23日（金・祝）13時30分より開会式を挙行。全日本実業団連合副会長の佐藤直亮協会常務理事が北川薫協会会長からのメッセージを代読し、主管する愛媛県ボウリング連盟の戒能潤之介会長が歓迎のことばを述べられた。

出場全チームを代表して、松山記念病院（愛媛）の河野博之選手が力強く健闘を誓い、大会3日間の競技をスタートした。

佐藤協会常務理事

愛媛県連盟　戒能会長

河野選手が宣誓

競技

予選1回戦、トヨタ自動車A（愛知）が3328でトップに立つも、2位の神奈川県実業団OBクラブ（神奈川）が4ピン差という接戦。3位の日本精工藤沢（神奈川）は180ピン差をつけられた。エナジックインターナショナル（沖縄）は11位と出遅れたが、2回戦で3340をマークして2位に浮上。3191としたトヨタ自動車Aは首位をキープすると、リードは116ピンまで広がった。

すると3回戦、トヨタ自動車Aは2939とスコアを伸ばせず。エナジックインターナショナルも2821で、3123と打ち上げた大和組（福岡）に2位を奪われた。

決勝戦を前にして、トヨタ自動車Aは188ピンのリード。1ゲーム目はトヨタ自動車Aも大和組も930台で差は変わらず。エナジックインターナショナルは大和組と3ピン差につけて、2ゲーム目には1204をマークした。トヨタ自動車Aも1158と打ち上げて、エナジックインターナショナルとは130ピン差を保った。最終ゲームもエナジックインターナショナルは1040としたが、トヨタ自動車Aは998にまとめて逃げ切った。

チームH／G　トヨタ自動車（左）、
チームH／S　エナジックインターナショナル

個人男女トップ3を表彰

チーム・個人とも賞金が

予選9ゲームの個人スコアをもとに、男女とも上位3名を表彰。男子は土方捷（神奈川・やまびこ）が、女子は石嶺可奈子（沖縄・エナジックインターナショナル）が第1位となった。

また今大会は会場のキスケ株式会社より賞金が提供された。チーム戦の優勝には6万円、準優勝には3万5千円が贈られた。個人賞は男女とも、第1位に2万5千円、第2位に1万2500円、第3位に5千円が贈られた。

個人男子

個人女子

パーフェクト

第51回全日本実業団選手権大会において、矢野徹選手（広島・JFE福山）が大会第17号となるパーフェクトゲームを達成、協会主催大会公認第442号パーフェクトゲームとして認定された。

矢野選手には会場のキスケ㈱より記念品が贈呈された。

パーフェクトの矢野(左)と個人H／S渡邉

矢野　徹	広島県	53歳
	JFE福山	
使用ボール	Jackal Rising(15p)	
公認ドリラー	小田　崇　（公認No.　1119-34　）	

入賞チーム

ガイド

全日本実業団選手権は実業団の最高峰とされる大会で、5人チーム戦を行う。

5人×9ゲームの合計スコア上位28チームが予選を通過し、決勝戦はさらに3ゲームを行い、予選との合計スコアで順位を決定する。

また予選での個人スコアをもとに、男女それぞれのトップ3も表彰。今大会はチーム上位3チームと個人賞受賞者に対し会場のキスケ㈱より褒賞金が贈呈された。

第51回全日本実業団ボウリング選手権大会 成績表

2018年11月23日(金・祝)～25(日)
参加：46チーム　243名　　会場：愛媛・キスケボウル

5人チーム戦（5×12G）				
優勝	トヨタ自動車A	（愛知）	阿部広知・本多悟・鈴木貴光 水野亮太・嘉指康之	12,544
準優勝	エナジックインターナショナル	（沖縄）	石嶺可奈子・我那覇隆也・下地健太 村濱裕紀・幸喜将太	12,456
第3位	桑名市役所	（三重）	庄瀬智大・串田綾香・米山裕紀 小椋達也・柳川弘行	12,233
第4位	日新電機	（京都）	佐々木武・高橋弘・棚橋保夫 山下正義・伊藤達也・大江晃代	12,222
第5位	日本精工藤沢	（神奈川）	斎藤祐太・小西昌平・小林猛 瀬戸優也・村上悦男・中川和紀	12,222
第6位	神奈川県実業団OBクラブ	（神奈川）	安藤博・大島竜一・広津守人 府川裕行・依藤草	12,195
個人　男子（9G）				
第1位	土方　捷	（神奈川・やまびこ）		2,091
第2位	佐々木　武	（京都・日新電機）		2,082
第3位	嘉指康之	（愛知・トヨタ自動車A）		2,063
個人　女子（9G）				
第1位	石嶺可奈子	（沖縄・エナジックインターナショナル）		1,790
第2位	古賀直美	（北海道・札幌市役所）		1,757
第3位	夏目美和	（愛知・デンソー）		1,747
ハイゲーム・ハイシリーズ				
チームハイゲーム	トヨタ自動車A	（愛知）	阿部広知・本多悟・鈴木貴光 水野亮太・嘉指康之	1,212
チームハイシリーズ	エナジックインターナショナル	（沖縄）	石嶺可奈子・我那覇隆也・下地健太 村濱裕紀・幸喜将太	3,340
個人ハイゲーム	矢野　徹	（広島・JFE福山）		300
個人ハイシリーズ	渡邉　翔	（福岡・日産自動車九州）		769

第36回全日本実業団都市対抗
ボウリング選手権大会
2019.2.1(金)▶3(日)

主　催　公益財団法人　全日本ボウリング協会
後　援　公益財団法人　東京都体育協会
主　管　全日本実業団ボウリング連合　東京都ボウリング連盟

東大和グランドボウル
〒207-0022　東京都東大和市桜が丘1-1330-19 BIGBOX東大和2F
TEL042-516-1556　FAX042-516-1557
http://www.grandbowl.jp/higashiyamato/

文部科学大臣杯 第25回全国高等学校対抗選手権大会

2度目の日本一

文部科学大臣杯第25回全国高等学校対抗選手権大会が12月21日(金)から23日（日・祝）にかけて神奈川・川崎グランドボウル（公競№114・023）で開催された。高校チームが2人チーム戦で日本一を争う「ボウリングの甲子園」。全国から79チームが出場し、男子は県立横須賀工業高校（神奈川）が3年ぶり2度目の優勝を果たした。女子は福岡第一高校（福岡）が16年ぶり2度目の大会制覇となった。

開会式

12月21日(金)16時から、川崎市教育文化会館において開会式が執り行われた。前回優勝の国士舘高校（男子／東京）と県立和歌山北高校（女子／和歌山）が文部科学大臣杯を返還。大会名誉会長、川崎市福田紀彦市長の歓迎の辞を市文化局市民スポーツ室・寺澤昌恵室長に代読いただき、北川薫協会会長が主催者を代表して挨拶した。競技規程説明、認証報告に続いて、地元神奈川県代表の県立釜利谷高校、伊藤匠海選手と恩田夏好選手が選手宣誓を行った。

協会　北川会長

上位入賞校に副賞贈呈

今大会の上位入賞校には企業提供の副賞が提供された。▽ファイテン㈱（チタンテープ、タオル）▽㈱アメリカンボウリングサービス（ボールバッグ）▽㈱サンブリッジ（ボールバッグ）▽㈱ハイ・スポーツ社（ディバッグ、マウンテンボトル）▽㈱レジェンドスター（ボールバッグ）〈順不同・敬称略〉

前回優勝校が大臣杯を返還

市民スポーツ室
寺澤室長

宣誓する恩田(左)、伊藤両選手

競技

女子の部

予選1回戦、堀越高校（東京）は3ゲーム目の477を活かして1269、2位の釜利谷高校（神奈川）に97ピンのリードを作った。さらに17ピン差で3位につけていた木曽川高校（愛知）は2回戦1372のビッグスコアで首位を奪った。釜利谷高校も1324とし31ピン差の2位、堀越高校はさらに32ピン差で3位となった。

3回戦も1293の木曽川高校は余裕のトップ通過を決めた。堀越高校は2位、釜利谷高校は3位で、ともにアベレージ200UPを維持する好投。8位までが決勝戦に進出を決めた。

予選のスコアを持ちこまない決勝トーナメント、今回も1回戦から木曽川高校が、8位通過の山本学園A（山形）に敗れる波乱が起きた。堀越高校は7位の飯山高校（香川）に、釜利谷高校は6位の大分高校（大分）に大差で勝利。4位の福岡第一（福岡）が5位の県立大師高校（神奈川）を下して、ベスト4が出そろった。

堀越高校VS釜利谷高校の準決勝は、ゲーム後半に連続ストライクを決めていった堀越高校が412対342で勝利した。福岡第一はイージーミスの無いゲーム運びで山本学園Aを圧倒、430対328で勝利した。

ともに歴代優勝校に名を連ねる名門が優勝決定戦で対決。5フレーム目の時点で福岡第一が8ピンリードという接戦を演じていたが、6フレーム目に4名中3名がオープンフレームを喫してしまう。唯一ここでストライクを決めた福岡第一の幸木がターキーを決めて一気に3マーク差を作った。

堀越高校も涌井が終盤ターキーで逆転のチャンスを作ったが、あと一つが続かず。396対386で福岡第一に軍配が上がった。

男子の部

1回戦から大分高校（大分）が1421の好投でトップに。2位の釜利谷高校（神奈川）も1389をマークした。2回戦も1257にまとめた大分高校に対し、釜利谷高校は1140とスコアを伸ばせず。差は149ピンに広がり、3位の弘前学院聖愛（青森）も24ピン差に迫ってきた。

3回戦はマイナススコアに終わった大分高校だったが1位はキープして決勝戦へ。混戦となっていた2位以下は、九州文化（長崎）が1281、県横須賀工業（神奈川）が1304をマークして2・3位につけた。弘前学院聖愛が8位で何とか通過を決めると、釜利谷高校は1ピン差の9位で涙を飲んだ。

大分高校VS弘前学院聖愛の1回戦は、上位争いを演じた両校らしい接戦の結果、410対393で大分高校が制した。九州文化は7位の星琳高校（福岡）に、県横須賀工業は6位の熊本国府（熊本）にともに2マーク差で勝利した。4位の清林館高校A（愛知）と5位の東奥学園（青森）の対戦は、2人とも200UPした清林館高校Aが勝ち上がった。

大分高校と清林館高校Aの準決勝は、両校前半はスペアに苦しむ展開。後半に中川が4連続ストライクを決めた清林館高校Aの勝利となった。もう一方の対戦、県横須賀工業は石川が8連発、九州文化は徳久が6連発を決めて464対459の好勝負に。県横須賀高校が優勝決定戦への切符を手にした。

頂上決戦は1年生コンビの県横須賀工業と、3年生で組んだ清林館高校Aのカード。両校力みの見える場面もありながら、県横須賀工業は石川が前半に4連発、中尾も後半に3連続でストライクを決めてオープンフレームを埋め合わせた。スコアは405対377で、県横須賀工業が同校3年ぶりとなる優勝を決めた。

男子入賞校

女子入賞校

H／G、H／S（左から）
戸塚、坂本、松尾

ガイド

「ボウリングの甲子園」と銘打ち開催されている全国高等学校対抗選手権大会は創設から25年を迎えた。神奈川県川崎市での開催は今回で15年目となる。

種目は男女とも2人チーム戦。予選は2人×9ゲームを行い上位8校が決勝トーナメントに進出する。順位に応じて対戦カードを決定し、1ゲームマッチの1回戦、準決勝、優勝決定戦を勝ち上がったチームが優勝となる。

主催　（公財）全日本ボウリング協会、（公財）川崎市スポーツ協会

共催　川崎市、川崎市教育委員会

後援　スポーツ庁、（公財）全国高等学校体育連盟、（公財）神奈川県体育連協会、神奈川県高等学校体育連盟、川崎地区高等学校体育連盟、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

協力　（公社）日本ボウリング場協会、川崎グランドボウル、読売新聞川崎読売会、川崎ホテルパーク、パールホテル川崎、ホテルスカイコート川崎、川崎セントラルホテル

協賛　川崎アゼリア㈱

主管運営　神奈川県ボウリング連盟

この事業は公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団の助成を受けて実施しています。

文部科学大臣杯 第25回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会 成績表

参加：男子59校・女子23校

2018年12月21日(金)～23日(日・祝)
会　場：神奈川県・川崎グランドボウル

≪男子の部≫

優　勝	神奈川県立横須賀工業高等学校（神奈川県）	
	中尾　一貴（1年）石川　夕真（1年）	
準優勝	清林館高等学校A（愛知県）	
	山下　琢朗（3年）中川　佑斗（3年）	
第3位	九州文化学園高等学校（長崎県）	
	三枝　蕉（3年）徳久　恵大（3年）	
第4位	大分高等学校（大分県）	
	前田　祐輔（3年）中尾　佑輝（1年）	
第5位	熊本国府高等学校（熊本県）	
	藤永　北斗（1年）中川　龍成（3年）	
第6位	弘前学院聖愛高等学校（青森県）	
	石岡　大空（2年）宇野　到汰（2年）	
第7位	星琳高等学校（福岡県）	
	岡本　龍二（2年）前畑　利樹（2年）	
第8位	東奥学園高等学校（青森県）	
	中村　優也（2年）前田　徹（2年）	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	坂本　就馬（神奈川県・神奈川県立麻溝台高等学校1年）	290
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	松尾　優輝（愛知県・清林館高等学校2年）	786

≪女子の部≫

優　勝	福岡第一高等学校（福岡県）	
	幸木百合菜（1年）原野　萌花（2年）	
準優勝	堀越高等学校（東京都）	
	野仲　美咲（2年）涌井　李音（3年）	
第3位	神奈川県立釜利谷高等学校（神奈川県）	
	恩田　夏好（1年）徳永　愛梨（1年）	
第4位	山本学園高等学校A（山形県）	
	沼沢　胡望（3年）長谷川　炎（2年）	
第5位	香川県立飯山高等学校（香川県）	
	高橋　みれ（3年）高橋　らむ（2年）	
第6位	大分高等学校（大分県）	
	岩本　藍樺（1年）益谷　ラナ（1年）	
第7位	愛知県立木曽川高等学校（愛知県）	
	山田悠歓奈（2年）戸塚　眞由（2年）	
第8位	神奈川県立大師高等学校（神奈川県）	
	諏訪　汐香（3年）森川　美琴（2年）	
ﾊｲｹﾞｰﾑ	戸塚　眞由（愛知県・愛知県立木曽川高等学校2年）	264
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	戸塚　眞由（愛知県・愛知県立木曽川高等学校2年）	754

第565号 (第三種郵便物認可) JBCnews 平成31年1月16日 (6)

15th Asian Senior Bowling Championships, JAPAN 2018

日本、メダルラッシュ

11/20の金メダル独占

〈第15回〉アジアシニア

第15回アジアシニア選手権大会が12月9日(日)から17日(月)にかけて、沖縄・エナジックボウル美浜（公競№147-024）で開催された。9の国と地域から247名のシニア選手が集まり、腕を競うとともにボウラー同士の親交を深めた。前回大会で国別対抗優勝の日本はホスト国として247名が出場。全20種目中11の金メダルを一挙獲得して、男女国別・男子国別・女子国別の全てで頂点に立った。

日本選手団

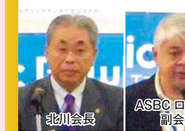
オープニングセレモニー

大会の開幕を知らせるオープニングセレモニーは12月10日(月)の18時30分からエナジックボウル美浜で挙行された。9つの国と地域から集まった選手たちを民謡歌手「ぼーちらーず」のオープニングアクトが出迎えた。

大会を主催するアジアシニアボウリング評議会(ASBC)のS.ロプレス副会長が開会を宣言し、北川薫協会会長とASBCの齋藤良太郎会長(協会専務理事)が主催者を代表してあいさつ。沖縄県の玉城デニー知事より寄せられたメッセージを県文化観光スポーツ部の山城貴子様に代読いただき、北谷町の野国昌春町長は町のPRキャラクター・ちーたんとともに登壇され歓迎のことばを述べられた。

審判団の宣誓につづき、日本代表の前田知一選手と柳川穂波選手が力強く選手宣誓した。

セレモニーにつづいてウェルカムレセプションも開かれた。北谷町栄口区青年会による「エイサー」のアトラクションで盛り上がる中、選手たちは懇親を深めつつ翌日からの健闘を誓い合った。


北川会長

ASBC ロプレス副会長

沖縄県文化観光スポーツ部山城様

選手宣誓する前田選手(左)と柳川選手

北谷町野国町長

ぼーちらーずが沖縄民謡を披露

地元青年会によるエイサー

男子シニア

4人チーム戦で待望の金メダル獲得

今大会への出場に並々ならぬ熱意を見せていた服部良成（長崎）が、シングルス戦で思いをぶつけるような好投を見せた。全ゲーム210超にまとめてトータル1329、Aグループの首位に立った。

しかし、スキル、経験、体力を兼ね備えた選手が豊富なこの世代。Bグループに登場した韓国のY・M・ソンが1378を、同じくJ・ピノーラ（グアム）が1331をマークして逆転した。服部は3位で銅メダルを獲得した。

ダブルス戦は服部と辻貴司（長崎）のペアが2631をマークし、Aグループの首位に立った。川島徹（神奈川）・前田知一（石川）ペアは2562、武田孝史（富山）・東秀雄（石川）ペアも2553で3位につけてBグループの結果を待った。

だが韓国のソン／キムペアが前半・後半とも130台に乗せて2631とし優勝。辻・服部ペアは銀メダルとなった。3位には5グループで2585を打った谷口樹（熊本）・藪下浩一（愛知）ペアが入った。

4人チーム戦は前半、武田、東と飯田剛（三重）、市川正明（京都）のチームが2628でトップに立った。すると後半は5・6ゲーム目で902・890とたたみかけて2634。2位に19・8ピン差をつける圧勝で金メダルに輝いた。

2位にも日本が、川島、前田と加地敏浩（兵庫）、吉本隆夫（熊本）が前半2601の2位で折り返すと、韓国勢の追い上げを4ピン差で振り切って銀メダルを獲得した。

オールエベンツは、ここまで金2・銅1と活躍している韓国のソンが1位に。日本勢は市川が2位で銀メダル、3位に吉本が入り銅メダルを獲得した。4位の藪下と5位の武田もマスターズ戦進出となった。

マスターズ戦は、シンガポールのP・ダリとH・アワンが前半に7勝を上げ、韓国のソンは半に7勝をパーフェクトを達成。日本勢は武田の5位が最上位で折り返しとなった。

後半はソンが追い上げてゆき5ゲーム目で逆転したが、ラスト2ゲームで2258・2334をマークしたダリが優勝となった。

女子シニア

鈴木が個人3冠、マスターズ戦は表彰台独占

シングルス戦、Aグループで登場した鈴木英子（福島）は1ゲーム目から254をマーク。前半の3ゲームを終えて702までスコアを伸ばした。後半も3ゲーム全て200UPして637とし、トータル1339の暫定トップで投げ終えた。

Bグループでは日・J・リー（韓国）が3ゲーム目以降を220超にまとめて追い上げたが1311。いきなりアベレージ220近くでの優勝争いとなった結果、鈴木が28ピン差で金メダルを獲得した。

3位争いも接戦の結果、Bグループで競技した太田千恵（神奈川）がプラススコアにまとめて銅メダルを手にした。

ダブルス戦も2グループに分かれて競技が行われた。鈴木と元全日本女王の渡邊美和（福岡）が組んでAグループに登場したが、前半3ゲームは力を出せず。後半に1256で追い上げたが、暫定3位に留まった。

このとき上位2チームは韓国。Bグループでもシングルス銀メダルのリーを擁する韓国ペアが、前半・後半とも122 2、後半も1255 1とする好投で優勝を決めた。

国際親善の側面を持つこのアジアシニア選手権では、1つの国・地域が1位から3位を独占した場合、別の国・地域の最上位者にも銅メダルが授与される。4位となった日本の渡邊・鈴木ペアが、前半122 2、後半も1255 1とする好投で優勝を決めた。

国際親善の側面を持つこのアジアシニア選手権では、1つの国・地域が1位から3位を独占した場合、別の国・地域の最上位者にも銅メダルが授与される。4位となった日本の渡邊・鈴木ペアは、1位とは2ピン差で3位に。日本は4ゲーム目に3位に順位を上げたが、ラストゲームでスコアを上げられず4位に終わった。この種目も表彰台を韓国が独占する結果となった。

鈴木とリーは、オールエベンツの金メダルをかけてデッドヒートを繰り広げた。シングルス戦では大差がつかなかったが、ダブルス戦を終えた時点ではリーが鈴木を75ピンリードしていた。4人チーム戦、徐々に差を詰めた鈴木は最終ゲームでついに逆転し、個人2つ目の金メダル獲得となった。

マスターズ戦はオールエベンツの上位16名で行われるが、1つの国・地域から進出できるのは4名まで。日本からは鈴木と太田、渡邊、林田尚恵（島根）の4名が入り、韓国とオーストラリアも4名、シンガポールと中国は2名ずつ進出となった。

前半8ゲームの時点でトップは渡邊。スタートから6連勝で勝利ポイントも味方につけて1722とした。2位には鈴木で33ピン差、林田も鈴木と20ピン差で3位につけた。

13位で折り返した太田だったが、後半は8戦6勝でぐんぐん順位を上げた。前半のトップ3もスコア・勝ち星ともに順調に伸ばしていった。4ゲームを終えて鈴木は2569で首位に立ったが、林田は1ピン差。渡邊は2人と4マーク差で迫ったが、4位には140ピンの大差をつけていた。5ゲーム目に渡邊はこのゲームで264と打ち上げた。トータルスコアは、渡邊の3434に対し鈴木が3437。3ピン差、薄氷の勝利で鈴木が個人3冠独占を果たした。

2位は渡邊、3位に林田が入り、4位にも太田が。日本の選手層の厚さが最も示された種目となった。

女子グランドシニア

オールエベンツで1・2・3フィニッシュ

シングルス戦、Aグループの鳥谷部エイチ（青森）が前半3ゲーム196・195・195の安定感。後半は1ゲーム目に258と打ち上げて、トータル1201とした。Bグループでは韓国のA・S・ジャンが鳥谷部を上回るアベレージでゲームを進めていたが、最終スコアでは逆転とならず、鳥谷部の金メダル獲得が決まった。

ダブルス戦ではAグループで、中ヒロチ（福井）と小池和美（京都）のペアが韓国ペアと大接戦を展開。前半2位につけた日本ペアは、4ゲーム目で韓国②ペアに抜かれるも、5ゲーム目は韓国①ペアを上回って2位に戻った。そして最終ゲームは2人そろって190台をマーク、韓国②を1ピン上回って暫定首位に立った。Bグループからはメダル圏内に入るスコアが出ず、そのまま日本が金メダル獲得を決めた。

4人チーム戦は前半、日本の都司加代子（神奈川）・平田千鶴子（岡山）・谷本則子（北海道）・竹本佐知子（広島）チームが2ゲーム目に814をマークしてトップで折り返した。2位の韓国とは34ピン差で、後半は1ゲーム目に逆転。2ゲーム目は再逆転とシーソーゲームに。日本の4ピンリードで迎えた最終ゲームは韓国が39ピン上回り、再々逆転で日本は銀メダルとなった。また銅メダルも日本が獲得。前半3位の唐津美佐子（埼玉）・浜辺津那子（島根）・吉川明子（三重）・鳥谷部のチームは、同じく4位の韓国チームと競り合いの末、最終ゲームに逆転して表彰台を決めた。

オールエベンツは金銀銅を日本が独占した。金メダルは中、銀は平田、銅は浜辺が獲得。大会規定によりB・J・キム（韓国）にも銅メダルが授与された。そしてマスターズ戦、日本の最後の1枠は6位の鳥谷部がつかんだ。

鳥谷部と浜辺は、マスターズ戦の前半でともに6勝を上げた。勝利ポイントを含めスコア1261の鳥谷部が1位でターンし、浜辺は26ピン差の2位に。3位のW・Y・ファン（韓国）は浜辺と1ピン差だった。

鳥谷部とファンは後半、3位以下を引き離していったが、4ゲーム目にファンが240をマークしたことで2人の差も一気に開いた。ラスト2ゲームで鳥谷部が詰め寄ったが逆転には至らず銀メダル獲得となった。

男子グランドシニア

4人チーム戦はダブルス金・銀メンバーで優勝

男子グランドシニアのシングルス戦は全選手が一斉に競技した。播本雄輔（京都）は前半に243・242・289のビッグスコアをマークし、後半3ゲームも640にまとめるとトータル1414。大台に乗せて金メダルを獲得した。2位の豊浦健（神奈川）も273・261と連発する好投で1386、3位の前田良一（石川）も前半734からの1347という高スコアのオンパレードで、日本勢が1・2・3フィニッシュを遂げた。

ダブルス戦は神下克己（徳島）・菊川隆行（長崎）ペアが2ゲーム目に517をマーク。後半3ゲームも1368と大きくスコアを伸ばして優勝を果たした。岩井親孝（富山）と播本ペアは韓国ペアと抜きつ抜かれつの展開も、15ピン差で銀メダルをもぎ取った。

4人チーム戦ではオーストラリアが前半2482とし首位で折り返し。日本はダブルスの金銀メンバーによるチームと、松井正信（大阪）・濱田常男（大阪）・藤山篤美（長崎）・上山正（栃木）のチームが、ともに2448で2・3位につけた。さらに4位にも板垣幸吉（静岡）・大西守（千葉）・高田勇（京都）・橋本敏（兵庫）チームが243 0で続いた。

後半、多くのチームがマイナスを喫した中で、岩井・播本・神下・菊川チームは2505と前半を上回るスコアをたたき出した。オーストラリアを逆転しただけでなく、109ピン差をつけての大勝を決めた。松井・濱田・藤山・上山チームは最終ゲームで851と追い上げるも、20ピン及ばず、銅メダル獲得となった。

播本はシングルス戦の優勝以降、オールエベンツのトップを守り抜いて個人種目2つ目の金メダルを獲得した。神下が4人チーム戦の後半で5位から順位を上げて銀メダル。上山も3位に入って、シングルスに続く日本の上位独占となった。

播本、神下、上山と前田の4名がマスターズ戦に進出。前半はS・W・ジャン（韓国）がトップに立った。前田は3ゲーム目にハンディキャップを加えて303をマーク、ジャンと2ピン差で続いた。上山はスタートから6連勝し、前田と4ピン差の3位につけた。

後半もジャンがリードを広げていたが、6ゲーム目に大きくマイナスしたことで前田は逆転した。同じタイミングでY・C・チョイ（韓国）も優勝戦線に浮上して、前田を4ピン上回ってトップに立った。

最後の1ゲーム、1位のチョイは2位につけたジャンと対戦して勝利、金メダルを黒星となったが、205にまとめたことでジャンをトータル1ピン上回り、銀メダルを獲得した。

ガイド

2年に一度、アジア地域のシニアボウラーが一堂に会するアジアシニア選手権大会、日本での開催は1993年（京都）、1999年（東京）、2007年（三重）に続いて4回目となった。

50～64歳はシニア部門、65歳以上はグランドシニア部門とし、さらに男女別で全4部門を設定。シングルス戦、ダブルス戦、4人チーム戦、オールエベンツ、マスターズ戦の5種目でメダルを争う。

シングルス戦、ダブルス戦、4人チーム戦は（数×6ゲームのトータルスコアで優勝を争う。オールエベンツは上記3種目における個人スコアの合計をもとに順位を決定し、各部門上位16名がマスターズ戦に進出する。（1つの国・地域からは4名を上限とする）

マスターズ戦は16名による総当たり戦で、1ゲームマッチを行い勝者にはポイント10点を加算する。最終ゲームはポジションマッチを行い、16ゲームのボーナス込み合計スコアを競う。

国際親善も目的としているこの大会では、1つの国がメダルを独占した種目は、他国の最上位チームに銅メダルが授与される。

国別対抗の順位は①金メダル数の上位、②銀メダル数の上位、③銅メダル数の上位、の順番で決定。日本は前回大会の金メダル10個を上回り11種目で優勝、男女国別対抗も連覇した。また男子、女子それぞれの国別対抗も1位となった。

主催 アジアシニアボウリング評議会、(公財) 全日本ボウリング協会
特別協賛 ㈱エナジックインターナショナル
後援 (公財) 日本スポーツ協会、(公財) 日本オリンピック委員会、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、(公財) 沖縄県体育協会、北谷町、北谷町観光協会、㈱沖縄タイムス社、㈱琉球新報社、琉球放送㈱、沖縄テレビ放送㈱、琉球朝日放送㈱、NHK沖縄放送局、(公社) 日本ボウリング場協会、沖縄県ボウリング場協会
協力 エナジックボウル美浜、沖縄ツーリスト㈱、日本ボウリング商工会
公認 アジアボウリング連盟
主管運営 沖縄県ボウリング連盟

この大会はスポーツ振興基金の助成を受けて開催しています。
スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

日本、国別対抗で優勝

ビクトリーバンケット

12月17日(月)、マスターズ戦を終えて興奮冷めやらぬ中でビクトリーバンケットが開催された。

各部門のマスターズ戦表彰式もこのバンケット内で執り行われ、４名のチャンピオンが祝福の中金メダルを授与された。また今大会でパーフェクトゲームを達成したL・ジア選手（中国）とY・M・ソン選手（韓国）には記念品が贈られた。

全種目を終了して国別対抗の順位が決定、大会を通じて金メダル数を競い合ってきた日本と韓国だったが、最終的に日本は過半数の11個を獲得して、2大会連続の男女国別対抗制覇を遂げた。表彰式では琉球ガラスで作られた優勝杯が、日本チームの川井敏孝監督へと授与された。

大会の恒例となっている参加チームとの記念品交換も行われた。開催国の日本からは、こちらも琉球ガラス製のピンのオブジェが贈られた。

このバンケットを最後の懇親の場として盛り上がった選手たち。時間の許す限り、生バンドの演奏や選手たちによるアトラクションに合わせて歌い踊った。

国別対抗優勝は日本！
カップを掲げる川井監督

パーフェクトも２名が達成

参加各国に琉球ガラスのピンを贈呈

カチャーシーを踊る選手たち

選手も特技を披露して盛り上げ（神下克己選手）

北谷町出身のバンド「しゃかり」が曲を披露

表彰　女子グランドシニア

シングルス戦　鳥谷部（中）が金メダル獲得

ダブルス戦　（中）金メダルの中＆小池

4人チーム戦　（左）銀メダルの谷本、郡司、平田、竹本、（右）銅メダルの唐津、浜辺、吉川、鳥谷部

オールエペンツ　日本がメダル独占（左から）銀・平田、金・中、銅・浜辺

マスターズ戦 銀メダルを獲得した鳥谷部（左）

第１５回アジアシニアボウリング選手権大会　成績

参加9の国と地域　247名（男子141・女子106）　2018.12.9-17　日本・沖縄　エナジックボウル美浜

○女子シニア部門

《シングルス戦》６Ｇ

優　勝	鈴　木　英　子（日本・福島）	1,339
準優勝	LEE HWA JA（大韓民国）	1,311
第３位	太　田　千　恵（日本・神奈川）	1,208
第５位	仁　科　成　美（日本・岡山）	1,179
第８位	吉　田　由美子（日本・埼玉）	1,158
第11位	高　木　則　子（日本・福井）	1,136
第15位	渡　邊　美　和（日本・福岡）	1,116
第16位	髙　橋　尚　代（日本・東京）	1,109
第27位	奥　　亨　子（日本・京都）	1,068
第28位	外　間　明　美（日本・沖縄）	1,066
第29位	菊　川　曜　子（日本・長崎）	1,059
第30位	大　底　京　子（日本・沖縄）	1,054
第33位	柳　川　穂　波（日本・三重）	1,040
第39位	宮　倉　祐　子（日本・島根）	1,020
第40位	林　田　尚　恵（日本・島根）	1,020
第45位	谷　口　久美子（日本・福岡）	993
第54位	伊　佐　弘　代（日本・沖縄）	913

《ダブルス戦》２×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	2,473
準優勝	大　韓　民　国	2,378
第３位	大　韓　民　国	2,349
銅ﾒﾀﾞﾙ	日　本（渡邊・鈴木）	2,303
第６位	日　本（高橋・太田）	2,220
第７位	日　本（奥・仁科）	2,155
第８位	日　本（吉田・柳川）	2,143
第９位	日　本（宮倉・林田）	2,137
第10位	日　本（谷口・高木）	2,134
第17位	日　本（外間・伊佐）	2,042
第26位	日　本（菊川・大底）	1,895

《４人チーム戦》４×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	4,585
準優勝	大　韓　民　国	4,552
第３位	大　韓　民　国	4,519
銅ﾒﾀﾞﾙ	日　本（吉田・柳川・渡邊・鈴木）	4,468
第５位	日　本（奥・髙橋・太田・仁科）	4,241
第７位	日　本（宮倉・林田・谷口・高木）	4,172
第10位	日　本（菊川・大底・外間・伊佐）	4,044

《オールエペンツ》１８Ｇ

第１位	鈴　木　英　子（日本・福島）	3,681
第２位	LEE HWA JA（大韓民国）	3,658
第３位	YUN BO YOUNG（大韓民国）	3,553
第８位	太　田　千　恵（日本・神奈川）	3,453
第10位	渡　邊　美　和（日本・福岡）	3,382
第13位	林　田　尚　恵（日本・島根）	3,338
第17位	髙　橋　尚　代（日本・東京）	3,275
第19位	柳　川　穂　波（日本・三重）	3,270
第20位	奥　　亨　子（日本・京都）	3,239
第22位	吉　田　由美子（日本・埼玉）	3,234
第27位	仁　科　成　美（日本・岡山）	3,213
第28位	高　木　則　子（日本・福井）	3,194
第29位	谷　口　久美子（日本・福岡）	3,138
第30位	外　間　明　美（日本・沖縄）	3,113
第35位	菊　川　曜　子（日本・長崎）	3,087
第44位	大　底　京　子（日本・沖縄）	2,953
第46位	宮　倉　祐　子（日本・島根）	2,942
第48位	伊　佐　弘　代（日本・沖縄）	2,920

《マスターズ戦》１６Ｇ

優　勝	鈴　木　英　子（日本・福島）	3,437(105)
準優勝	渡　邊　美　和（日本・福岡）	3,434(130)
第３位	林　田　尚　恵（日本・島根）	3,390(90)
銅ﾒﾀﾞﾙ	BAKER JANET（ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）	3,190(125)
第４位	太　田　千　恵（日本・神奈川）	3,199(90)

○女子グランドシニア部門

《シングルス戦》６Ｇ

優　勝	鳥谷部　エイ子（日本・青森）	1,201
準優勝	LEE KEUM JA（大韓民国）	1,158
第３位	JANG AE SIM（大韓民国）	1,156
第４位	中　　ヒロ子（日本・福井）	1,150
第５位	吉　川　朋　子（日本・三重）	1,149
第６位	郡　司　加代子（日本・神奈川）	1,147
第７位	平　田　千鶴子（日本・岡山）	1,123
第８位	浜　辺　津那子（日本・島根）	1,118
第11位	小　池　和　美（日本・京都）	1,109
第12位	髙　本　正　子（日本・愛知）	1,104
第13位	唐　津　美佐子（日本・埼玉）	1,078
第14位	濱　元　小夜子（日本・愛知）	1,077
第15位	田　中　和　子（日本・北海道）	1,065
第23位	赤　嶺　洋　子（日本・沖縄）	1,019
第25位	谷　本　則　子（日本・北海道）	989
第28位	井　川　静　江（日本・北海道）	979
第29位	板　垣　愛　子（日本・静岡）	979
第31位	藤　村　由美子（日本・静岡）	978
第35位	与那覇　英　子（日本・沖縄）	940
第37位	竹　本　佐知子（日本・広島）	936

《ダブルス戦》２×６Ｇ

優　勝	日　本（中・小池）	2,222
準優勝	大　韓　民　国	2,221
第３位	大　韓　民　国	2,199
第４位	日　本（唐津・浜辺）	2,178
第５位	日　本（田中・井川）	2,147
第７位	日　本（郡司・平田）	2,111
第９位	日　本（吉川・鳥谷部）	2,095
第10位	日　本（谷本・竹本）	2,092
第12位	日　本（藤村・板垣）	2,057
第18位	日　本（濱元・髙本）	1,893
第19位	日　本（赤嶺・与那覇）	1,855

《４人チーム戦》４×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	4,342
準優勝	日　本（郡司・平田・谷本・竹本）	4,307
第３位	日　本（唐津・浜辺・吉川・鳥谷部）	4,239
第５位	日　本（藤村・板垣・中・小池）	4,195
第８位	日　本（濱元・髙本・井川・赤嶺）	3,830

《オールエペンツ》１８Ｇ

第１位	中　　ヒロ子（日本・福井）	3,438
第２位	平　田　千鶴子（日本・岡山）	3,425
第３位	浜　辺　津那子（日本・島根）	3,370
銅ﾒﾀﾞﾙ	KIM JIN BOK（大韓民国）	3,347
第６位	鳥谷部　エイ子（日本・青森）	3,311
第８位	吉　川　朋　子（日本・三重）	3,222
第９位	郡　司　加代子（日本・神奈川）	3,186
第10位	小　池　和　美（日本・京都）	3,173
第12位	唐　津　美佐子（日本・埼玉）	3,155
第19位	井　川　静　江（日本・北海道）	3,075
第20位	赤　嶺　洋　子（日本・沖縄）	3,063
第21位	竹　本　佐知子（日本・広島）	3,055
第22位	板　垣　愛　子（日本・静岡）	3,054
第23位	谷　本　則　子（日本・北海道）	3,039
第25位	藤　村　由美子（日本・静岡）	3,025
第27位	髙　本　正　子（日本・愛知）	3,008
第32位	濱　元　小夜子（日本・愛知）	2,931

《マスターズ戦》１６Ｇ

優　勝	HWANG WOL YOUNG（大韓民国）	3,230(120)
準優勝	鳥谷部　エイ子（日本・青森）	3,193(120)
第３位	KIM JIN BOK（大韓民国）	3,060(105)
第５位	浜　辺　津那子（日本・島根）	2,998(90)
第６位	平　田　千鶴子（日本・岡山）	2,979(95)
第10位	中　　ヒロ子（日本・福井）	2,852(110)

表彰　男子グランドシニア

シングルス戦　（左から）銀・豊浦、金・播本、銅・前田

ダブルス戦　（中）神下と菊川が金メダル、（左）岩井と播本は銀メダル

４人チーム戦　（中）金メダルは播本・神下・岩井・菊川、（右）松井、上山、藤山、濱田は銅メダル

オールエペンツ　（左から）銀の神下、金の播本、銅の上山

マスターズ戦　前田（左）が銀メダル獲得

表彰　女子シニア

シングルス戦　鈴木（中）が金、太田（右）が銅

ダブルス戦　韓国勢が上位独占、（右）渡邊と鈴木が銅メダル

４人チーム戦　（右）４位で銅メダルの吉田、渡邊、柳川、鈴木

オールエペンツ　鈴木（中）、２つ目の金メダル

マスターズ戦　金銀銅独占！（左から）渡邊、鈴木、林田

表彰　男子シニア

シングルス戦　服部（右）が銅メダル獲得

ダブルス戦　（左）銀メダルの辻と服部、（右）銅メダルの谷と藪下

４人チーム戦　（中）金メダルの市川、武田、東、飯田と（左）銀メダルの前田、川島、吉本、加地

オールエペンツ　（左）銀メダルの市川、（右）銅メダルの吉本

マスターズ戦　シンガポールが金銀独占

○男子シニア部門

《シングルス戦》６Ｇ

優　勝	SON YONG MOK（大韓民国）	1,378
準優勝	PINAULA JIMｸﾞﾗﾑ	1,331
第３位	服　部　良　成（日本・長崎）	1,329
第４位	藪　下　浩　一（日本・愛知）	1,318
第５位	武　田　孝　史（日本・富山）	1,317
第９位	市　川　正　明（日本・京都）	1,302
第11位	吉　本　隆　夫（日本・熊本）	1,294
第16位	小　幡　章　夫（日本・愛知）	1,255
第17位	飯　田　剛（日本・三重）	1,254
第19位	前　田　知　一（日本・石川）	1,247
第23位	谷　　昌　樹（日本・熊本）	1,219
第24位	小比類巻　正昭（日本・青森）	1,218
第26位	辻　　貴　司（日本・長崎）	1,211
第27位	加　地　敏　浩（日本・兵庫）	1,205
第28位	川　島　　徹（日本・神奈川）	1,205
第30位	糸　賀　祥　雄（日本・埼玉）	1,202
第33位	川　南　由起男（日本・神奈川）	1,195
第34位	東　　秀　雄（日本・石川）	1,193
第39位	國　友　俊　康（日本・福岡）	1,172
第43位	古　堅　政　浩（日本・沖縄）	1,158
第45位	鎌　田　幸　義（日本・和歌山）	1,155
第46位	島　袋　善　幸（日本・沖縄）	1,155
第52位	金　子　正　春（日本・埼玉）	1,138
第60位	前田盛　　淳（日本・沖縄）	1,085

《ダブルス戦》２×６Ｇ

優　勝	大　韓　民　国	2,631
準優勝	日　本（辻・服部）	2,618
第３位	日　本（谷・藪下）	2,585
第５位	日　本（川島・前田）	2,562
第６位	日　本（武田・東）	2,553
第９位	日　本（加地・吉本）	2,488
第17位	日　本（飯田・市川）	2,399
第18位	日　本（小比類巻・小幡）	2,380
第22位	日　本（糸賀・金子）	2,306
第27位	日　本（川南・前田盛）	2,226
第29位	日　本（鎌田・國友）	2,198
第33位	日　本（古堅・島袋）	2,098

《４人チーム戦》４×６Ｇ

優　勝	日　本（武田・飯田・市川・東）	5,262
準優勝	日　本（川島・前田・加地・吉本）	5,074
第３位	大　韓　民　国	5,070
第８位	日　本（谷・古堅・島袋・藪下）	4,803
第10位	日　本（小比類巻・糸賀・金子・小幡）	4,722
第14位	日　本（鎌田・國友・辻・服部）	4,596
第15位	日　本（川南・前田盛・加藤・成田）	4,380

《オールエペンツ》１８Ｇ

第１位	SON YONG MOK（大韓民国）	4,139
第２位	市　川　正　明（日本・京都）	4,037
第３位	吉　本　隆　夫（日本・熊本）	3,953
第４位	藪　下　浩　一（日本・愛知）	3,873
第５位	武　田　孝　史（日本・富山）	3,858
第６位	服　部　良　成（日本・長崎）	3,855
第９位	前　田　知　一（日本・石川）	3,823
第10位	東　　秀　雄（日本・石川）	3,814
第11位	川　島　　徹（日本・神奈川）	3,807
第18位	谷　　昌　樹（日本・熊本）	3,703
第23位	辻　　貴　司（日本・長崎）	3,663
第24位	小比類巻　正昭（日本・青森）	3,642
第30位	小　幡　章　夫（日本・愛知）	3,610
第34位	飯　田　　剛（日本・三重）	3,571
第39位	糸　賀　祥　雄（日本・埼玉）	3,516
第40位	川　南　由起男（日本・神奈川）	3,513
第43位	加　地　敏　浩（日本・兵庫）	3,492
第47位	金　子　正　春（日本・埼玉）	3,453
第48位	古　堅　政　浩（日本・沖縄）	3,448
第52位	鎌　田　幸　義（日本・和歌山）	3,416
第57位	國　友　俊　康（日本・福岡）	3,345
第58位	島　袋　善　幸（日本・沖縄）	3,312
第62位	前田盛　　淳（日本・沖縄）	3,274

《マスターズ戦》１６Ｇ

優　勝	DALI PAIMAN（ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）	3,733(110)
準優勝	AWANG HAIRON（ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）	3,674(110)
第３位	SON YONG MOK（大韓民国）	3,670(85)
第９位	吉　本　隆　夫（日本・熊本）	3,500(80)
第10位	市　川　正　明（日本・京都）	3,472(80)
第11位	武　田　孝　史（日本・富山）	3,464(80)
第13位	藪　下　浩　一（日本・愛知）	3,301(40)

○男子グランドシニア部門

《シングルス戦》６Ｇ

優　勝	播　本　雄　輔（日本・京都）	1,414
準優勝	豊　浦　　健（日本・神奈川）	1,386
第３位	前　田　良　一（日本・石川）	1,347
銅ﾒﾀﾞﾙ	CHOI BYUNG IK（大韓民国）	1,327
第６位	菊　川　隆　行（日本・長崎）	1,300
第８位	遠　藤　邦　夫（日本・福島）	1,288
第10位	上　山　　正（日本・栃木）	1,258
第11位	松　井　正　信（日本・大阪）	1,258
第12位	橋　本　　敏（日本・兵庫）	1,248
第14位	吉　田　　実（日本・広島）	1,244
第15位	岩　井　親　孝（日本・富山）	1,244
第20位	神　下　克　己（日本・徳島）	1,207
第21位	鈴　木　隆　博（日本・三重）	1,205
第22位	高　田　　勇（日本・京都）	1,202
第24位	濱　田　常　男（日本・大阪）	1,178
第25位	黒　畑　幸　作（日本・北海道）	1,168
第29位	成　田　直　晴（日本・沖縄）	1,156
第31位	謝　花　喜　信（日本・沖縄）	1,149
第33位	加　藤　幸　雄（日本・島取）	1,132
第36位	中　川　外　治（日本・石川）	1,127
第37位	板　垣　幸　吉（日本・静岡）	1,126
第44位	藤　山　篤　美（日本・長崎）	1,097
第45位	金　城　徳　光（日本・沖縄）	1,091
第47位	川　合　孝　晴（日本・三重）	1,066
第54位	溝　口　芳　明（日本・広島）	1,021
第55位	田　中　義　徳（日本・北海道）	1,021
第56位	大　西　　守（日本・千葉）	1,008

《ダブルス戦》２×６Ｇ

優　勝	日　本（神下・菊川）	2,633
準優勝	日　本（岩井・播本）	2,501
第３位	大　韓　民　国	2,486
第４位	日　本（松井・濱田）	2,427
第７位	日　本（藤山・上山）	2,383
第８位	日　本（遠藤・豊浦）	2,375
第11位	日　本（高田・橋本）	2,316
第16位	日　本（謝花・金城）	2,255
第19位	日　本（中川・前田）	2,189
第20位	日　本（板垣・大西）	2,181
第22位	日　本（溝口・黒畑）	2,168
第24位	日　本（加藤・成田）	2,091
第25位	日　本（川合・鈴木）	2,063
第29位	日　本（吉田・田中）	1,250

《４人チーム戦》４×６Ｇ

優　勝	日　本（岩井・播本・神下・菊川）	4,953
準優勝	オーストラリア	4,844
第３位	日　本（松井・濱田・藤山・上山）	4,824
第４位	日　本（板垣・大西・高田・橋本）	4,801
第７位	日　本（遠藤・豊浦・中川・前田）	4,694
第10位	日　本（溝口・黒畑・川合・鈴木）	4,388
第11位	日　本（吉田・謝花・金城）	3,535

《オールエペンツ》１８Ｇ

第１位	播　本　雄　輔（日本・京都）	3,890
第２位	神　下　克　己（日本・徳島）	3,880
第３位	上　山　　正（日本・栃木）	3,830
銅ﾒﾀﾞﾙ	MAY MICK（ｵｰｽﾄﾗﾘｱ）	3,811
第５位	前　田　良　一（日本・石川）	3,806
第７位	菊　川　隆　行（日本・長崎）	3,775
第８位	松　井　正　信（日本・大阪）	3,770
第９位	吉　田　　実（日本・広島）	3,769
第11位	豊　浦　　健（日本・神奈川）	3,710
第12位	岩　井　親　孝（日本・富山）	3,707
第13位	橋　本　　敏（日本・兵庫）	3,652
第14位	遠　藤　邦　夫（日本・福島）	3,602
第17位	濱　田　常　男（日本・大阪）	3,593
第27位	高　田　　勇（日本・京都）	3,443
第28位	板　垣　幸　吉（日本・静岡）	3,428
第32位	金　城　徳　光（日本・沖縄）	3,410
第36位	成　田　直　晴（日本・沖縄）	3,374
第38位	黒　畑　幸　作（日本・北海道）	3,359
第39位	大　西　　守（日本・千葉）	3,359
第42位	鈴　木　隆　博（日本・三重）	3,340
第44位	謝　花　喜　信（日本・沖縄）	3,321
第47位	中　川　外　治（日本・石川）	3,288
第49位	藤　山　篤　美（日本・長崎）	3,232
第50位	川　合　孝　晴（日本・三重）	3,197
第51位	溝　口　芳　明（日本・広島）	3,183
第52位	加　藤　幸　雄（日本・島取）	3,158

《マスターズ戦》１６Ｇ

優　勝	CHOI YOON CHIL（大韓民国）	3,586(120)
準優勝	前　田　良　一（日本・石川）	3,553(120)
第３位	JANG SEOK WOO（大韓民国）	3,552(100)
第４位	上　山　　正（日本・栃木）	3,538(110)
第５位	神　下　克　己（日本・徳島）	3,518(100)
第７位	播　本　雄　輔（日本・京都）	3,361(100)

世界選手権大会男子大会2018

苦杯の中に光明も　チーム戦、7位と健闘

写真協力 Asian Bowling Federation

日本選手団（後列左から）伊藤団長、和田、春田、佐々木、山下コーチ、（前列左から）安里、田中、新畑

オープニングセレモニー

世界選手権大会男子大会2018が11月24日(月)から12月5日(土)にかけて中国香港で開催された。47の国と地域から267名の代表選手が参加した。経験豊富なメンバーに若手が加わったチームの日本は、出場中5大会ぶりに世界選手権でメダル0の結果となったが、5人チーム戦で7位に入る健闘も見せた。

ボウリングの世界選手権は現在、男子大会、シングルス選手権、女子大会、男女大会を4年サイクルで開催している。男子大会の開催は通算で5回目で、その初回（2006年）が世界選手権初出場であった佐々木智之（神奈川）をキャプテンに、アジア競技大会金メダルの和田翔吾と安里秀策（ともに和歌山）、2016アジア選手権メダリストの新畑雄飛（福井）と、日本代表初選出の春田恒平（茨城）、田中椋也（石川）という布陣で臨んだ。

競技種目はシングルス戦、ダブルス戦、トリオ戦、5人チーム戦とマスターズ戦で、オールエベンツ（個人総合）もあわせた6種のメダルを争った。

267名の選手がファイナリスト4枠を争うシングルス戦が最初の種目。予選は4つのグループに分かれて行われた。第1グループで和田がビッグゲームを活かして上位争いをしたが暫定8位。新畑も第2グループ内で6位としたが、予選突破には遠く。第3グループで佐々木は日本勢トップのスコアを記録したが、最終順位は20位に留まった。

ダブルス戦では春田と田中のペアが善戦した。3ゲーム目を終えた時点で、強豪のアメリカ、マレーシアに次ぐ3位のスコア。後半は苦戦してグループ内でも9位まで順位を落としたが、この種目は日本勢最上位で終えた。

トリオ戦は前半3ゲーム、後半3ゲームの2ブロックに分けて2日間で予選を行った。日本はアジア競技大会の金メダルトリオが再度チームを組んで臨んだが、前半16位と大きく出遅れてしまった。後半は1897とスコアを伸ばすことに成功したが、11位に上げるのがやっとだった。

5人チーム戦も前半・後半に分けての競技。前半は春田を除く5名で臨み、4位と106ピン差の13位につけた。全46チームを前半スコアの上位・下位でグループ分けして行われた後半、まだ決勝進出のチャンスがある日本は390をマークした。後半のみでは4位となる好スコアで順位を上げたが、決勝進出ラインとは62ピン差の7位で予選敗退となった。

日本男子の5人チーム戦最高戦績は、日本が初出場した第6回大会（1967年）の準優勝。以降、1ケタ台の順位には今回を含めて7度入っているが、9位だった第14回大会（1999年）以来19年ぶりに高水準を達成したことは今大会の大きな成果として残った。

そして4種目の予選における個人成績をもとに、オールエベンツの順位が決定した。24位以内がマスターズ戦に進出する中、和田が19位に入った。レーンコンディション攻略に皆苦戦した今大会だったが、和田のスコアは1266・1190・1296・1256（各6ゲーム）の安定ぶりだった。

マスターズ戦は3ゲームマッチ（2ゲーム先取制）のトーナメント戦を行う。8位以上で通過した選手はシードで2回戦から登場。19位の和田は1回戦で14位通過のJ・ラティア（フィンランド）と対戦した。和田は1ゲーム目に214対203で惜敗し、後が無くなった2ゲーム目には相手に277をマークされて2連敗。1回戦で姿を消した。

海外での輝かしい実績を積み重ねてきた現在のナショナルチームも、今回の世界選手権が最後の公式国際大会に。1月のメンバー選考を経て、4月にはチームが再編成される。経験を引継ぎながら、新たな目標に向けて動き出す。

５人チーム戦 イタリア（後列右）が金メダルと躍進

マスターズ戦ではカナダ勢が金・銅メダル

世界ボウリング選手権大会男子大会２０１８

2018.11.24～12.5
参加47の国と地域　267名　　中国香港・SCAAボウリングセンター

《シングルス戦》予選６Ｇ　⇒　決勝トーナメント

予選順位		予選ｽｺｱ			
第１位	Anderson, Andrew(ｱﾒﾘｶ)	1,473	170	204	
第４位	MacLelland, Dan(ｶﾅﾀﾞ)	1,349	256		
第２位	Troup, Kyle(ｱﾒﾘｶ)	1,368	170	217	
第３位	Ismail, Muhammad Rafiq（ﾏﾚｰｼｱ）	1,361	171		
第20位	佐々木　智　之(日本･神奈川)	1,275			
第25位	和　田　翔　吾(日本･和歌山)	1,266			
第37位	新　畑　雄　飛(日本･福井)	1,245			
第74位	田　中　椋　也(日本･石川)	1,193			
第100位	安　里　秀　策(日本･和歌山)	1,173			
第114位	春　田　恒　平(日本･茨城)	1,150			

優　勝　Ismail, Muhammad Rafiq（ﾏﾚｰｼｱ）
準優勝　MacLelland, Dan(ｶﾅﾀﾞ)
第３位　Anderson, Andrew(ｱﾒﾘｶ)　Troup, Kyle(ｱﾒﾘｶ)

《ダブルス戦》予選２×６Ｇ　⇒　決勝トーナメント

予選順位		予選ｽｺｱ			
第１位	ア　メ　リ　カ	2,756	495	370	
第４位	大　韓　民　国	2,579	377		
第２位	カ　ナ　ダ	2,666	412	433	
第３位	マ　レ　ー　シ　ア	2,596	458		
第46位	日　本(田中･春田)	2,374			
第57位	日　本(新畑･和田)	2,339			
第73位	日　本(佐々木･安里)	2,265			

優　勝　マレーシア
準優勝　アメリカ
第３位　カナダ　大韓民国

《トリオ戦》予選３×６Ｇ　⇒　決勝トーナメント

予選順位		予選ｽｺｱ			
第１位	大　韓　民　国	3,960	654	632	
第４位	ア　メ　リ　カ	3,881	695		
第２位	イ　ン　ド　ネ　シ　ア	3,918	632	551	
第３位	ス　ウ　ェ　ー　デ　ン	3,883	591		
第11位	日本(佐々木･和田･安里)	3,736			
第61位	日本(田中･春田･新畑)	3,318			

優　勝　アメリカ
準優勝　インドネシア
第３位　大韓民国　スウェーデン

《５人チーム戦》予選５×６Ｇ　⇒　決勝トーナメント

予選順位		予選ｽｺｱ			
第１位	ア　メ　リ　カ	6,373	2	0	
第４位	シ　ン　ガ　ポ　ー　ル	6,130	0		
第２位	カ　ナ　ダ	6,242	1	2	
第３位	イ　タ　リ　ア	6,132	2		
第７位	日本(佐々木･新畑･和田･安里･田中･春田)	6,068			

優　勝　イタリア
準優勝　アメリカ
第３位　カナダ　シンガポール

《オールエベンツ》２４Ｇ

第１位	Tackett, EJ(ｱﾒﾘｶ)	5,352
第２位	Anderson, Andrew(ｱﾒﾘｶ)	5,285
第３位	MacLelland, Dan(ｶﾅﾀﾞ)	5,277
第19位	和　田　翔　吾(日本･和歌山)	5,008
第46位	安　里　秀　策(日本･和歌山)	4,888
第83位	佐々木　智　之(日本･神奈川)	4,730
第94位	新　畑　雄　飛(日本･福井)	4,706
第114位	春　田　恒　平(日本･茨城)	4,655
第138位	田　中　椋　也(日本･石川)	4,571

《マスターズ戦》
優　勝　Hupe, Mitch(ｶﾅﾀﾞ)
準優勝　Troup, Kyle(ｱﾒﾘｶ)
第３位　Sloan, Christopher(ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ)
第３位　MacLelland, Dan(ｶﾅﾀﾞ)
ﾍﾞｽﾄ24　和田翔吾(日本･和歌山)　(ｽﾃｯﾌﾟ1敗退)

佐々木智之(神奈川･湘南モノレール㈱)
春田　恒平(茨城･㈱日立製作所)
田中　椋也(石川･北電テクノサービス㈱)
新畑　雄飛(福井･(公財)福井県スポーツ協会)
和田　翔吾(和歌山･和歌山県海草振興局建設部)
安里　秀策(和歌山･日高東宝ボウル)

JBC会長杯
第34回全日本年齢別ボウリング選手権大会
2019.2.9(土)▶11(月･祝)
主　催　公益財団法人 全日本ボウリング協会
後　援　公益財団法人 神奈川県体育協会
主　管　神奈川県ボウリング連盟
川崎グランドボウル
〒210-0012　神奈川県川崎市川崎区宮前町11-14
TEL 044-244-2281　https://www.grandbowl.jp/kawasaki/

文部科学大臣杯 第56回 全日本大学選手権大会

男子 実力伯仲

女子 貫禄の優勝劇

女子入賞校

男子入賞校

開会式

開会式は11月23日（金・祝）の12時40分から執り行われた。前回アベック優勝を遂げた岡山商科大学から男女の文部科学大臣杯が返還され、レプリカが授与された。

全日本学生連合会長でもある吉岡英隆協会副会長が出場各校へ激励を送り、全日本学生連合の小池克彦委員長が訓辞を述べた。

競技規程説明・認証報告に続いて、岡山商科大学の河邊領治選手、石本美来選手が選手宣誓を行い、3日間の大会が幕を開けた。

吉岡協会副会長

学生連合
小池委員長

岡山商科・河邊選手と石本選手が宣誓

石本美来選手を学連が特別表彰

第18回アジア競技大会（2018ジャカルタ／パレンバン）の女子マスターズ戦で金メダルを獲得した石本美来選手を、全日本学生ボウリング連合が特別表彰した。大会開会式上にて目録の贈呈が行われた。

競技

男子の部

昨年3位の早稲田大学が首位発進。3ゲームローハイ15ピンの安定感で3125にまとめ、2位の青森中央学院大学を51ピンリードした。連覇を狙う岡山商科大学Aは2位と68ピン差で3位につけると、2回戦は3209と打ち上げてトップに。早稲田も3081の高スコアで9ピン差と肉薄。青森中央学院も早稲田と35ピン差と、ゲームアベレージにして1ピン差にも満たない大接戦で初日を終えた。

大会2日目、3回戦は早稲田が3279、青森中央学院は3244とともに好調。早稲田がトータルを9485まで伸ばして予選1位通過を決めた。青森中央学院は70ピン差で、岡山商科Aはさらに115ピン差をつけられた。

準決勝では早稲田に異変、シリーズ2841の大失速で3位に後退してしまう。青森中央学院はトータル12453でトップに立ち、岡山商科Aも3117と盛り返して31ピン差の2位に。早稲田はその96ピン差で続き、決勝戦を迎えた。

決勝1ゲーム目、青森中央学院は1062をマークした。早稲田も1050としたが差は開き、岡山商科Aは858で窮地に。すると青森中央学院も2ゲーム目に899とスコアを落とし、早稲田が71ピン差まで迫ってきた。5人チーム戦だけに逆転もあり得る状況となって迎えた最終ゲーム、優勝の行方は最終フレームのアンカー勝負にもつれ込んだ。883と調子の戻らなかった青森中央学院に対し、早稲田は944。6ピン差で青森中央学院が逃げ切った。

女子の部

青森中央学院大学が1回戦で1279とし好スタート。3連覇がかかる岡山商科大学Aは129ピンの大差をつけられたが、2回戦では1298と打ち上げに成功。逆転した上、青森中央学院に84ピン差をつけた。

3回戦は1139に留まった岡山商科Aだが、青森中央学院も1107と伸ばせず、リードは116ピン差に開いた。準決勝、1187の岡山商科Aに1160で喰らいつく青森中央学院だったが、1285をマークした岡山商科大学Bにも23ピン差まで迫られてしまう。

決勝戦、2位の座も危うくなった青森中央学院は、1ゲーム目に434をマークした。これで3位との差を広げたのはもちろん、岡山商科Aとの差も89ピン差まで縮めた。しかし2ゲーム目は353で、3位に浮上してきた千葉商科大学に40ピン差まで詰め寄られた。

2位以下が攻防する一方、岡山商科Aは380・395と無難にスコアをまとめていった。131ピン差で迎えた最終ゲームは、青森中央学院が再び440と打ち上げたが、ここも395とした岡山商科Aがゆとりをもって逃げ切り、3連覇を達成した。

（左から）個人H／G 高良、佐古、H／S 斎藤、西山、H／Avg 石本

チームH／G、H／S　岡山商科A（左）と早稲田

パーフェクト

第56回全日本大学選手権大会において、佐古健太郎選手（早稲田大学）が大会第6号となるパーフェクトゲームを達成、協会主催大会第443号パーフェクトゲームとして認定された。

佐古健太郎	パーフェクト	22歳
	早稲田大学	
使用ボール	Super Gate(15p)	
公認ドリラー	大方一孝	（公認No. 1531-13 ）

ガイド

大学日本一を決定する全日本大学選手権大会。全日本学生連合に加盟する大学チームが出場し、男子は5人チーム戦、女子は2人チーム戦を行う。優勝校には文部科学大臣杯が授与される。

予選9ゲーム、準決勝3ゲーム、決勝3ゲームを行い、トータルピンで優勝を争う。

総計75ゲーム分（5人×15ゲーム）のスコアを競う男子の部で、今回はわずか6ピン差で優勝が決する接戦となった。トータルピンを競う大会でありながら、対戦形式にも似た勝負の様相が色濃く盛り上がる試合でもある。

この事業は公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団の助成を受けて実施しています。

文部科学大臣杯 第56回全日本大学ボウリング選手権大会 成績表

2018年11月23日（金）～25日（日）
会場：神奈川・川崎グランドボウル

男子５人チーム戦（5×15G）　青森中央学院大学　2年ぶり2度目

選手権校	青森中央学院大学	西山響・鴻巣翔・工藤陽一郎・小原栄輝 石川新・深川広大・大下内琢朗	15,297
準優勝	早稲田大学	岸崎大知・白間海渡・小野在由・山下諒也 佐古健太郎・藤田晃治・三木遼大	15,291
第３位	岡山商科大学Ａ	河邊領治・上原朋久・野村経博・藤原智也 近藤雄太・川崎未来・高橋晃大	15,244
第４位	千葉商科大学Ａ	木辻慧・室原一貴・尾谷華衣利・山本青空 東海純・小川卓哉・樋口敦也	14,393
第５位	京都産業大学	嵐健次郎・後充人・寺本将聖・矢尾光 葛山雅人・増井孝行・寺石遼	14,271
第６位	同志社大学	福田健太・生駒大志郎・瀬良天基 佐藤健太・澤田貴斗・牧田大空	13,981
ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	早稲田大学	岸崎大知・白間海渡・小野在由・山下諒也 佐古健太郎・藤田晃治・三木遼大	1,205
ﾁｰﾑﾊｲｼﾘｰｽﾞ	早稲田大学	岸崎大知・白間海渡・小野在由・山下諒也 佐古健太郎・藤田晃治・三木遼大	3,279
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	佐古健太郎	（早稲田大学）	300
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	西山響	（青森中央学院大学）	746
個人ﾊｲｱﾍﾞﾚｰｼﾞ	佐古健太郎	（早稲田大学）	222…2

女子２人チーム戦（2×15G）　岡山商科大学　3年連続3度目

選手権校	岡山商科大学Ａ	石本美来・原田菜津実・金知我	5,944
準優勝	青森中央学院大学	上口りずむ・斎藤こ夏	5,858
第３位	千葉商科大学	坪井美樹・首原千愛	5,737
ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	岡山商科大学Ａ	石本美来・原田菜津実・金知我	482
ﾁｰﾑﾊｲｼﾘｰｽﾞ	岡山商科大学Ａ	石本美来・原田菜津実・金知我	1,298
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	高良綾音	（岡山商科大学）	279
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	斎藤こ夏	（青森中央学院大学）	714
個人ﾊｲｱﾍﾞﾚｰｼﾞ	石本美来	（岡山商科大学）	204…7

第50回 全日本大学個人ボウリング選手権大会
2019/2/14（木）▶16（土）
主催　公益財団法人 全日本ボウリング協会
主管　全日本学生ボウリング連合　関西学生ボウリング連盟
キョーイチボウル宇治
〒611-0042　京都府宇治市小倉町神楽田55-1
TEL 0774-22-5524

We are Team JAPAN
ナショナルチーム通信

アジア大会金メダリストがマスコミ各賞を受賞

第18回アジア競技大会男子トリオチーム（佐々木智之・和田翔吾・安里秀策）が第68回日本スポーツ賞（読売新聞社制定）の競技団体別最優秀賞に選ばれました。

同大会で女子マスターズ戦優勝の石本美来は東京運動記者クラブボウリング分科会の2018年度アマチュア最優秀選手に選ばれました。

文部科学大臣杯 第56回 全日本大学選手権大会

文部科学大臣杯第56回全日本大学選手権大会が11月23日（金・祝）から25日(日)にかけて、神奈川・川崎グランドボウル（公競№114‐023）で開催されました。男子は三つ巴の優勝争いを展開し、６ピン差で決着する大接戦の結果、青森中央学院大学が２年ぶりに王座を奪還しました。女子は岡山商科大学Ａの４年生ペアが有終の美を飾り、３年連続３度目の大会制覇を遂げました。　【詳細は11面】

女子 岡山商科　男子 青森中央学院がV

PBAリージョナルツアー ウィメンズスコーピオン 水谷秋穂が優勝

©JBP

PBAリージョナルツアー・DHCカップPBAウィメンズ・スコーピオンオープン（JBC協力）で、全日本ユースナショナルチームメンバーの水谷秋穂（愛知）が優勝を果たしました。

大会は12月23日（日・祝）に東京・東大和グランドボウル（公競№113‐112）で開催。勝ち上がってきた水谷は優勝決定戦で290をマークして、堂々頂点に立ちました。

翌24日(月)におこなわれた男女混合戦のスコーピオンオープンでは、元全日本ナショナルチームメンバーの川添奨太プロが優勝しました。

ROUND1 グラチャン2019 INFORMATION

ROUND１ GRAND CHAMPIONSHIP BOWLING 2019がいよいよ１月に開幕、大会２代目のチャンピオンを決める戦いが始まります。

2018大会は泉宗心音（JBC・愛媛）の400万円獲得はじめアマチュアボウラーの大活躍で幕を閉じました。「アマチュアでも賞金獲得のチャンス」は現実のものに。2019年も大会全体で賞金総額3000万円（特別協賛・㈱ラウンドワン）が用意されています。

１ｓｔステップとなるJBC予選会は、１月26日(土)の愛知／福岡開催を皮切りに、７月末まで全45回のラインナップです。予選会通過者はJBC決勝大会（９月13日(金)・14日(土)）でJBC代表選手の座を争い、11月９日(土)開催のＦＩＮＡＬでJPBA、NBFの代表選手との決戦に臨みます。

JBC予選会のエントリーは各会場開催日の約２カ月前から受付を開始します。お一人で複数回の参加も可能ですので全国大会の出場権獲得を目指して、何度でもトライしてください。

1月から開幕！ 2代目王者を決める戦い

2月の予選会カレンダー

【エントリー受付中】
▽2月23日(土)　J03・埼玉　ラウンドワンスタジアム上尾店
▽2月23日(土)　J04・徳島　ラウンドワン徳島・万代店
▽3月2日(土)　J05・岩手　ラウンドワンスタジアム盛岡店
▽3月2日(土)　J06・京都　ラウンドワンスタジアム京都伏見店
▽3月2日(土)　J07・鹿児島　ラウンドワンスタジアム鹿児島宇宿店
▽3月9日(土)　J08・北海道　ラウンドワンスタジアム札幌・白石本通店
▽3月9日(土)　J09・静岡　ラウンドワンスタジアム浜松店
▽3月9日(土)　J10・広島　ラウンドワン福山店
▽3月9日(土)　J11・愛媛　ラウンドワン松山店
▽3月9日(土)　J12・宮崎　ラウンドワンスタジアム宮崎店
▽3月9日(土)　J13・沖縄　ラウンドワン沖縄・南風原店
▽3月16日(土)　J14・福島　ラウンドワンスタジアム福島店
▽3月16日(土)　J15・神奈川　ラウンドワンスタジアム川崎大師店
▽3月16日(土)　J16・滋賀　ラウンドワンスタジアム浜大津アーカス店
【1／30エントリー開始】
▽3月30日(土)　J17・新潟　ラウンドワンスタジアム新潟店
▽3月30日(土)　J18・奈良　ラウンドワンスタジアム奈良ミ・ナーラ店
▽3月30日(土)　J19・佐賀　ラウンドワンスタジアム佐賀店
【2／6エントリー開始】
▽4月6日(土)　J20・東京　ラウンドワンスタジアム武蔵村山店
▽4月6日(土)　J21・香川　ラウンドワンスタジアム高松店
【2／13エントリー開始】
▽4月13日(土)　J22・長野　ラウンドワンスタジアム長野店
▽4月13日(土)　J23・三重　ラウンドワンスタジアムみえ・川越IC店
▽4月13日(土)　J24・山口　ラウンドワンスタジアム下関店
【2／20エントリー開始】
▽4月20日(土)　J25・宮城　ラウンドワンスタジアム仙台苦竹店
▽4月20日(土)　J26・山梨　ラウンドワンスタジアム山梨・石和店
▽4月20日(土)　J27・兵庫　ラウンドワン新開地店
【2／27エントリー開始】
▽4月27日(土)　J28・栃木　ラウンドワンスタジアム宇都宮店
▽4月27日(土)　J29・愛知　ラウンドワンスタジアム中川1号線店

連盟トピックス

新潟日報スポーツ賞を 都道府県対抗優勝チームが受賞

―新潟県連盟―

新潟県チーム（前列左から）渡辺、金子(智)、（後列左から）金子(猛)、金山の各選手

第47回全国都道府県対抗選手権大会の混合４人チーム戦で優勝した新潟県チームが、第42回新潟日報スポーツ賞を受賞しました。

全国大会や海外で活躍を納めた新潟県内の３チームと７選手が受賞。ボウリングの新潟県代表チームは渡辺望選手、金子猛選手、金子智恵子選手、金山正道選手の４名で、同大会・同種目で県勢として初優勝を果たしたことが評価されました。

２０１９年の茨城国体と同じ会場で成し得た快挙。金子智恵子選手は「経験を県内選手で共有し、国体につなげたい」と語りました。

主催：JPBA JBC NBF　特別協賛：SPORTS ENTERTAINMENT ROUND1　JBC予選会エントリー受付中　http://www.jbc-bowling.or.jp/gcb2019/